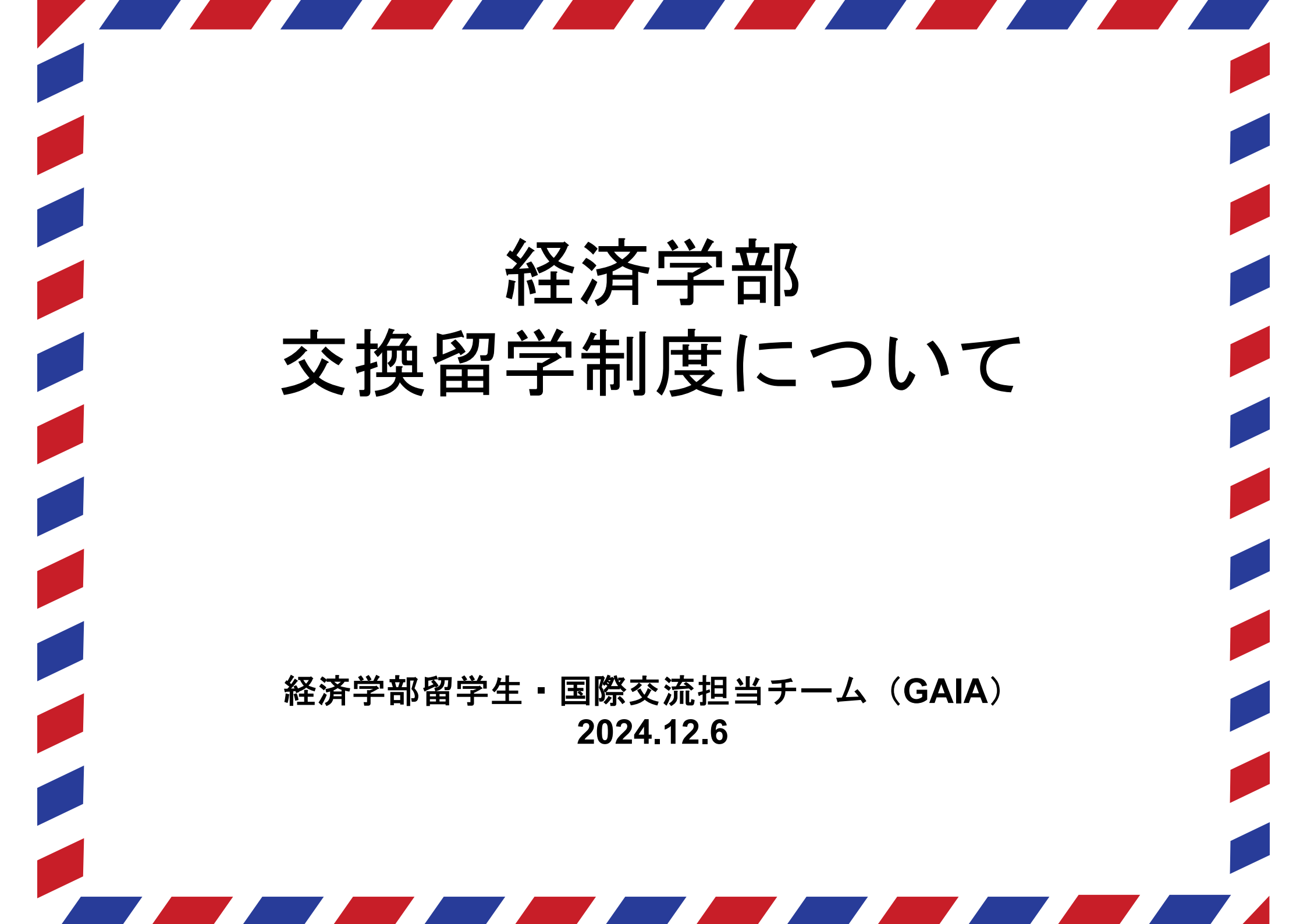




経済学部 交換留学制度について

経済学部留学生・国際交流担当チーム（GAIA）
2024.12.6

交換留学制度とは

学生交流協定に基づき、学生を海外の大学に派遣する制度。
派遣先大学ならではの専門科目を履修し勉学の幅を広げる。

語学の習得を目的とした**語学留学**ではない。

学籍上の取扱は「留学」。「留学」期間は在学年数に算入。

留学先で取得した単位は経済学部での審査を経て認定される。認定された単位は、卒業単位に算入可能。

なお、サマープログラムやウィンタープログラム、休学（海外修学）などは、ここでいう**交換留学とは異なる**ので、
要注意。

学生交流協定締結大学

部局間学生交流協定4校

スウェーデン：Stockholm School of Economics(SSE)

ドイツ：フランクフルト大学 経済・経営学部

フランス：HEC（アッシュ・ウ・セ）経営大学院

イギリス：UCL（ユニバーシティー・カレッジ・ロンドン）

大学間学生交流協定は87校

北米、南米、アジア、オーストラリア、ヨーロッパ

英語圏以外でも英語で履修可能な大学も多い

派遣実績

2024年度派遣実績(春派遣予定含)

部局間学生交流協定：

HEC2名、SSE 1名、フランクフルト大学1名

大学間学生交流協定：

グラスゴー大学、ダラム大学、ウォーリック大学、サウサンプトン大学、LSE、SOAS、エクセター大学、トリニティ・カレッジ・ダブリン、パリ政治学院、ジュネーヴ大学、コペンハーゲン大学、ケルン大学、ミュンヘン大学、ボアジチ大学、シンガポール国立大学、ソウル大学校、シドニー大学、メルボルン大学、モナシュ大学、ニューサウスウェールズ大学、アデレード大学、ノースイースタン大学、イリノイ大学、UCサンタクルーズ、トロント大学、マギル大学、ビクトリア大学

合計31名

上記はすべて英語で授業が履修できる協定校。

経済学部における 交換留学生の選考

選考方法：書類および面接審査

選考のポイント：

交換留学生として派遣するにふさわしいかどうか？

主なチェック項目は

専門科目の成績、英語力、学業成績、推薦書、留学計画

専門科目1

専門科目1は、経済学部**の基礎科目**。

成績不振な場合は、協定校で専門科目を学ぶのに必要な基礎知識の習得が不十分であると見なされ、交換留学生選考の際は不利。経済学部派遣基準は成績係数2.0以上。

英語力

求められる英語力は協定校により異なるが、高い方がよい。派遣先大学では英語でのディスカッションやグループワークが多いため、発言に問題ない英語力があることを証明する必要がある。通常はTOEFLまたはIELTSで派遣先大学が指定したスコアの提出が必要。

基礎知識と英語力は関連性があり、ある程度は補い合うことが可能。

学業成績

交換留学生は、協定大学に本学部が責任を持って送り出す学生である。いわば、経済学部代表であるため、成績不振な学生を送り出すことはできない。経済学部派遣基準は、専門1と別に、専門2から4で成績係数2.0以上。

$$\text{成績係数} = \frac{\text{Aの単位数} \times 3 + \text{Bの単位数} \times 2 + \text{Cの単位数} \times 1}{\text{総取得単位数}}$$

海外留学のための奨学金についても、学業成績が良い方が、奨学金獲得可能性が高まる。

推薦書

どのような学生かを客観的に記載したもの。

経済学部進学後は演習/少人数講義（ゼミ）の教員による推薦書が望ましい。

留学計画

目的や意義を明確に書けるよう、入念な準備が必要。
この留学が自分の将来に与える影響、協定校での履修計画等、具体的に示すことができると、なお良い。

情報収集

経済学部HPの派遣留学制度のページを要チェック。

本学と海外の大学では、学事暦にずれがあるため、特に、演習（ゼミ）、少人数講義、卒論については、本学部での履修上の留意点がある。何らかのプログラムに参加したい学生は、事前に以下へ連絡しアポイントメントをとった上で、申請前に以下窓口に来訪し、確認すること。

GAIA: 経済学部留学生・国際交流担当チーム
本郷キャンパス：経済学研究科棟 5階

補足1：サマープログラムなど

サマープログラムやウィンタープログラムは本学の授業を欠席せずに参加できるプログラムも多い。短期プログラム参加後に、1学期以上の留学を希望する学生が多い。

サマープログラム等で取得した単位については、経済学部での単位認定はない。

休業期間をのぞき2か月以内のプログラムは、旅行届を提出して参加する。休業期間をのぞき2か月をこえる場合は休学の手続きを取って参加する。

* 危機管理上、外務省海外安全情報危険情報/感染症危険情報レベル2以上の場合は原則として渡航が認められない。

外務省海外安全情報レベル

外務省海外安全ホームページ

<https://www.anzen.mofa.go.jp/riskmap/>

「レベル１：十分注意してください。」

その国・地域への渡航，滞在に当たって危険を避けていただくため特別な注意が必要です。

「レベル２：不要不急の渡航は止めてください。」

その国・地域への不要不急の渡航は止めてください。渡航する場合には特別な注意を払うとともに、十分な安全対策をとってください。

「レベル３：渡航は止めてください。（渡航中止勧告）」

その国・地域への渡航は，どのような目的であれ止めてください。（場合によっては，現地に滞在している日本人の方々に対して退避の可能性や準備を促すメッセージを含むことがあります。）

「レベル４：退避してください。渡航は止めてください。（退避勧告）」

その国・地域に滞在している方は滞在地から，安全な国・地域へ退避してください。この状況では，当然のことながら，どのような目的であれ新たな渡航は止めてください。

補足2：休学（海外修学）

協定校以外の海外の大学や大学付属語学教育クラスなどに籍をおいて留学するときは、学籍上の取扱は休学（海外修学）となる。休学期間中に修得した単位については、経済学部では**単位認定の対象と**
ならない。

休学して海外修学する場合は、東京大学を通さず、学生個人で留学先を決め、手続きする必要がある。留学先の授業料は自己負担となるため、経済的負担が大きい。

東京大学経済学部を卒業するためには、在学年数（休学期間はそのぞく）および単位数の卒業要件を満たす必要がある。不安な人は、なるべく早めにGAIA・経済学部教務チームに相談のこと。

協定校担当者より

...send us students showing **more motivation and interest**, also making sure, that their level of English is **sufficient** to **participate and interact** in class.

十分な英語力と明確な留学目的を持つ学生さんの応募をお待ちしています。